

UMLを使った、現状業務フロー図の例(サンプル)

現状の業務フローと共に、問題がある作業については業務毎に問題点を記述する。また、業務間で渡される情報(：納期など)は、後でシステム化する時のデータテーブルになる。この現状の業務フローの問題点を解決する、システム化機能を設定し新規業務フローを作成する事になる。

